

## 2 令和5年の主要な自殺の状況

### (1) 令和5年における自殺の概況

自殺統計によると、令和5年の自殺者数は総数で見ると21,837人であり、前年に比べて44人の減少となった。男女別にみると、男性は前年から116人増加の14,862人、女性は同160人減少の6,975人となり、男性は女性の約2倍であった。

年齢階級別にみると、「50～59歳」が4,194人と最も多く、次いで「40～49歳」(3,625人)、「70～79歳」(2,901人)の順が多かった。男女別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も多く、男性は2,939人、女性は1,255人となり、いずれも前年より増加した。

職業別にみると、「無職者」が11,466人と最も多く、次いで「有職者」(8,858人)、「学生・生徒等」(1,019人)と続いた。

無職者の内訳をみると、「年金・雇用保険等受給者」が全体のおよそ半数となる5,797人であった。男女ともに「年金・雇用保険等

受給者」(男性：3,624人、女性：2,173人)が無職者の約半数であり、次いで「その他の無職者」(男性：2,247人、女性：1,167人)が多かった。

学生・生徒等の内訳をみると、「大学生」が最も多く410人であった。男女別にみると、男性は「大学生」(257人)が最も多かったが、女性は「大学生」(153人)より「高校生」(166人)が多かった。女性は「専修学校生等」を除いて前年より増加しており、「小学生」及び「中学生」では男性を上回った。

原因・動機別にみると、「健康問題」が12,403件と最も多く、「経済・生活問題」(5,181件)、「家庭問題」(4,708件)が続いた。男女ともに「健康問題」が最も多く(男性：7,224件、女性：5,179件)、男性は「経済・生活問題」(4,508件)が、女性は「家庭問題」(1,831件)が2番目に多かった(図表1-9)。

図表1-9 令和5年の年齢階級別、職業別、原因・動機別にみた自殺者数と前年比較

全体	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
	21,837	(-44)	14,862	(+116)	6,975	(-160)

(人)

年齢階級	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
～19歳	810	(+12)	431	(-33)	379	(+45)
20～29歳	2,521	(+38)	1,599	(-73)	922	(+111)
30～39歳	2,587	(+42)	1,883	(+99)	704	(-57)
40～49歳	3,625	(-40)	2,665	(+54)	960	(-94)
50～59歳	4,194	(+101)	2,939	(+91)	1,255	(+10)
60～69歳	2,798	(+33)	1,931	(+69)	867	(-36)
70～79歳	2,901	(-93)	1,910	(+4)	991	(-97)
80歳～	2,370	(-120)	1,479	(-79)	891	(-41)
不詳	31	(-17)	25	(-16)	6	(-1)

(人)

職業	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
有職者	8,858	(+282)	7,063	(+252)	1,795	(+30)
学生・生徒等	1,019	(-44)	572	(-91)	447	(+47)
小学生	13	(-4)	5	(-7)	8	(+3)
中学生	153	(+10)	73	(0)	80	(+10)
高校生	347	(-7)	181	(-27)	166	(+20)
大学生	410	(-28)	257	(-48)	153	(+20)
専修学校生等	96	(-15)	56	(-9)	40	(-6)
無職者	11,466	(-309)	6,827	(-88)	4,639	(-221)
主婦・主夫	1,058	(-117)	18	(+9)	1,040	(-126)
失業者	1,141	(-79)	901	(-87)	240	(+8)
利子・配当・家賃等生活者	34	(-18)	17	(-23)	17	(+5)
年金・雇用保険等受給者	5,797	(-277)	3,624	(-116)	2,173	(-161)
ホームレス	22	(+4)	20	(+2)	2	(+2)
その他の無職者	3,414	(+178)	2,247	(+127)	1,167	(+51)
不詳	494	(+27)	400	(+43)	94	(-16)

(人)

原因・動機	総数	(前年差)	男性	(前年差)	女性	(前年差)
家庭問題	4,708	(-67)	2,877	(-8)	1,831	(-59)
健康問題	12,403	(-371)	7,224	(-77)	5,179	(-294)
経済・生活問題	5,181	(+484)	4,508	(+381)	673	(+103)
勤務問題	2,875	(-93)	2,451	(-87)	424	(-6)
交際問題	877	(+49)	536	(+51)	341	(-2)
学校問題	524	(-55)	340	(-52)	184	(-3)
その他	1,776	(+42)	1,244	(+52)	532	(-10)

(件)

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

## (2) 令和5年における自殺の状況の詳細

令和5年の自殺の状況をより詳しく把握するために、年齢階級及び職業別の構成をみると、「70～79歳」の「無職者」が最も多く2,438人であった。次いで「80歳～」の「無

職者」が2,251人と多く、高年齢層の無職者による自殺が多かった。男女別にみると、男性は「50～59歳」の「有職者」が最も多く(1,766人)、女性は「70～79歳」の「無職者」が最も多かった(916人)(図表1-10)。

図表1-10 令和5年の年齢階級及び職業別にみた自殺者数

(人)

職業	年齢階級	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
		計	810	2,521	2,587	3,625	4,194	2,798	2,901	2,370	31
合計	男	431	1,599	1,883	2,665	2,939	1,931	1,910	1,479	25	14,862
	女	379	922	704	960	1,255	867	991	891	6	6,975
	計	95	1,377	1,579	2,089	2,158	1,021	428	111	0	8,858
有職者	男	57	919	1,263	1,743	1,766	860	360	95	0	7,063
	女	38	458	316	346	392	161	68	16	0	1,795
	計	629	382	7	0	1	0	0	0	0	1,019
学生・生徒等	男	330	238	3	0	1	0	0	0	0	572
	女	299	144	4	0	0	0	0	0	0	447
	計	82	706	930	1,436	1,915	1,708	2,438	2,251	0	11,466
無職者	男	43	409	560	832	1,071	1,012	1,522	1,378	0	6,827
	女	39	297	370	604	844	696	916	873	0	4,639
	計	0	29	97	202	335	226	119	50	0	1,058
主婦・主夫	男	0	0	3	2	2	3	6	2	0	18
	女	0	29	94	200	333	223	113	48	0	1,040
	計	5	135	205	286	336	138	31	5	0	1,141
失業者	男	3	89	161	224	273	117	29	5	0	901
	女	2	46	44	62	63	21	2	0	0	240
	計	4	74	155	260	379	898	2,015	2,012	0	5,797
年金・雇用保険等受給者	男	0	40	81	143	229	582	1,291	1,258	0	3,624
	女	4	34	74	117	150	316	724	754	0	2,173
	計	73	468	473	688	865	446	273	184	0	3,470
その他	男	40	280	315	463	567	310	196	113	0	2,284
	女	33	188	158	225	298	136	77	71	0	1,186
	計	4	56	71	100	120	69	35	8	31	494
不詳	男	1	33	57	90	101	59	28	6	25	400
	女	3	23	14	10	19	10	7	2	6	94

※「無職者」のうちの「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「ホームレス」、「その他の無職者」を足し合わせたもの。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

更に年齢階級別の自殺の原因・動機をみると、ほとんどの階級で「健康問題」が多く、特に「70～79歳」は最も多く、2,310件であった。「～19歳」では「学校問題」が326件と最も多かった。男女別にみてもほとんどの階級で「健康問題」が多く、男性で「健康

問題」に次いで多い「経済・生活問題」では、特に「50～59歳」が1,194件と多かった。女性で「健康問題」に次いで多い「家庭問題」は、「50～59歳」が395件と多かった(図表1-11)。

図表1-11 令和5年の年齢階級別に見た原因・動機

(件)

年齢階級 原因・動機		～19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳～	不詳	合計
家庭問題	計	155	358	574	891	1,000	547	599	584	0	4,708
	男	82	196	377	580	605	315	369	353	0	2,877
	女	73	162	197	311	395	232	230	231	0	1,831
健康問題	計	263	1,005	1,130	1,682	2,179	1,783	2,310	2,051	0	12,403
	男	103	473	673	1,008	1,235	1,036	1,440	1,256	0	7,224
	女	160	532	457	674	944	747	870	795	0	5,179
経済・ 生活問題	計	32	531	771	1,122	1,338	848	434	103	2	5,181
	男	19	427	689	1,016	1,194	736	360	65	2	4,508
	女	13	104	82	106	144	112	74	38	0	673
勤務問題	計	29	491	547	765	735	229	69	10	0	2,875
	男	23	380	460	666	649	200	64	9	0	2,451
	女	6	111	87	99	86	29	5	1	0	424
交際問題	計	70	358	187	133	82	27	15	5	0	877
	男	29	206	126	90	48	24	8	5	0	536
	女	41	152	61	43	34	3	7	0	0	341
学校問題	計	326	195	3	0	0	0	0	0	0	524
	男	201	137	2	0	0	0	0	0	0	340
	女	125	58	1	0	0	0	0	0	0	184
その他	計	106	246	216	256	322	200	229	201	0	1,776
	男	63	168	160	199	242	145	151	116	0	1,244
	女	43	78	56	57	80	55	78	85	0	532

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

次に、職業別の自殺の原因・動機をみると、「無職者」の「健康問題」が最も多く8,597件であった。男女別にみても最も多いのは「無職者」の「健康問題」(男性：4,693件、女性：3,904件)だが、男性は、次いで

「有職者」の「経済・生活問題」(2,561件)、「有職者」の「健康問題」(2,322件)が多く、女性は「無職者」の「家庭問題」(1,250件)、「有職者」の「健康問題」(1,058件)が多かった(図表1-12)。

図表1-12 令和5年の職業別にみた原因・動機

(件)

原因・動機	職業	有職者	無職					不詳	
			学生・生徒等	無職者	主婦・主夫	失業者	年金・雇用保険等受給者		その他
家庭問題	計	1,989	155	2,520	388	201	1,253	678	44
	男	1,495	82	1,270	6	147	734	383	30
	女	494	73	1,250	382	54	519	295	14
健康問題	計	3,380	315	8,597	870	528	5,028	2,171	111
	男	2,322	142	4,693	13	374	3,044	1,262	67
	女	1,058	173	3,904	857	154	1,984	909	44
経済・生活問題	計	2,794	53	2,186	64	651	626	845	148
	男	2,561	31	1,781	4	576	472	729	135
	女	233	22	405	60	75	154	116	13
勤務問題	計	2,553	9	303	8	175	30	90	10
	男	2,207	6	229	1	138	22	68	9
	女	346	3	74	7	37	8	22	1
交際問題	計	566	88	207	12	46	47	102	16
	男	372	37	117	3	32	27	55	10
	女	194	51	90	9	14	20	47	6
学校問題	計	2	505	17	0	0	0	17	0
	男	1	324	15	0	0	0	15	0
	女	1	181	2	0	0	0	2	0
その他	計	670	116	949	43	87	476	343	41
	男	548	70	591	0	68	291	232	35
	女	122	46	358	43	19	185	111	6

※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることに留意が必要である。  
 ※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。  
 ※「無職者」のうちの「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「ホームレス」、「その他の無職者」を足し合わせたもの。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成